

1. はじめに

今日は、2025 年に開催予定の大阪・関西万博を前に、博覧会と社会の関係についてお話ししたいと思います。特に、大阪の近現代史と天王寺区の歩みを振り返りながら、博覧会がどのように影響を与えてきたかを探ります。大阪市の市制施行や市域拡張、そして天王寺区の発展についても触れていきます。

2. 社会にとって博覧会とは？

大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」、コンセプトは「People's Living Lab(未来社会の実験場)」です。博覧会はただ展示を見るだけでなく、世界中のアイデアを交換し、未来社会を共に創り出す場とされ、万博開催前からオンラインプラットフォームを通じて、世界中の課題や解決策を共有することが目指されています。また、私たち人類全体の課題解決に向けて、先端技術や英知を集める場と位置付けられています。「未来社会のショーケース」という言葉も使われているように、博覧会は未来を強く意識して開催されるものといえます。

3. 明治時代前半の天王寺区

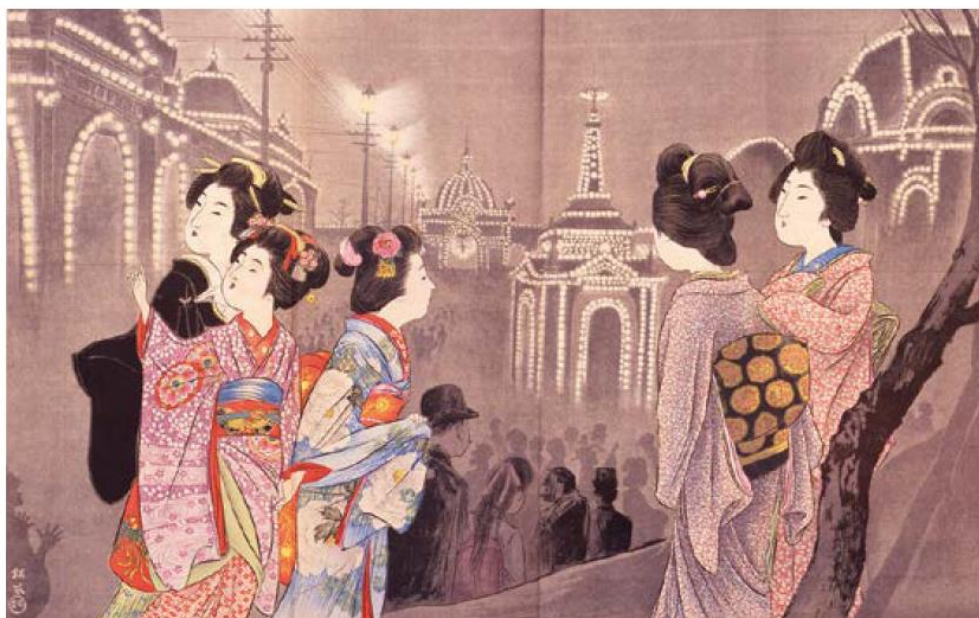
明治 22 年に関西本線(現在の大和路線)が開通し、天王寺駅が開設されました。これにより、天王寺は鉄道ターミナルの街としての基盤が形成されました。明治 28 年には現在の環状線に相当する線路が敷かれ、天王寺から大阪駅までの鉄道網が整備されました。明治 30 年には第一次市域拡張が行われ、現在の天王寺区の地域が大阪市に編入されました。これにより、天王寺は大阪市内でも重要な鉄道拠点となりました。

4. 第五回内国勧業博覧会の開催

明治 36 年、天王寺で第五回内国勧業博覧会が開催されました。この博覧会は、明治政府の「殖産興業」の方針に基づいて開催され、産業や工業の振興を広く国民にアピールするための重要なイベントでした。約 13 万人の商工業者や芸術家が出品し、約 530 万人の来場者を集める大成功を収めました。展示部門は農業、園芸、林

業、水産、採鉱・冶金、化学工業、染織工業、美術など多岐にわたりました。特に、海外からも多くの出展があり、国際色豊かな博覧会となりました。博覧会の跡地は、天王寺公園と新世界になりました。

第五回内国勸業博覧会電灯裝飾之図
〔出典〕国立国会図書館ウェブサイト



5. 「大大阪」と天王寺区の誕生・大大阪記念博覧会

大正 14 年(1925 年)に大阪市の第二次市域拡張が行われ、大阪市は人口約 211 万人、面積約 181 km²の日本一の大都市となり、「大大阪」と呼ばれるようになりました。この時、天王寺区も南区から分区されて誕生しました。この市域拡張により、大阪市は都市としての機能や規模を大幅に拡大し、天王寺区もその一翼を担うこととなりました。大大阪記念博覧会は、この市域拡張と大阪毎日新聞の創刊 15000 号を記念して開催され、約 190 万人の来場者を集めました。天王寺会場では「二十七大阪」というテーマで展示が行われ、さまざまな分野での大阪の魅力を紹介しました。



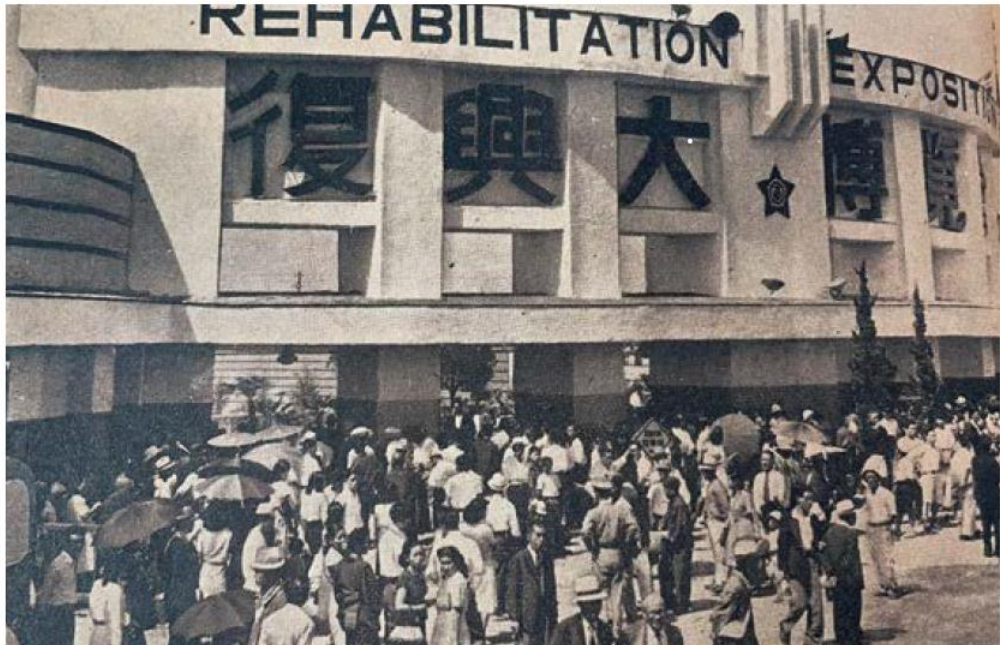
6. 昭和初期の博覧会ブーム

昭和初期、昭和天皇の即位を記念して全国で多数の博覧会が開催されました。天王寺公園でも「大礼奉祝 交通電気博覧会」が開かれ、約 100 万人の来場者を集めました。この時期、天王寺公園は有力な博覧会会場として頻繁に利用され、昭和期にはさらに百貨店や遊園地も博覧会の会場として利用されるようになりました。例えば、高島屋や松坂屋などの百貨店では、小規模ながらも多様な博覧会が行われ、一般市民に新しい商品や技術を紹介する場となりました。

7. 復興大博覧会の開催

昭和 20 年の大阪大空襲により、市内は甚大な被害を受けました。その復興を目的として、昭和 23 年(1948 年)に毎日新聞社の主催で復興大博覧会が天王寺区で開催されました。会期は 9 月 18 日から 11 月 17 日までで、会場は夕陽丘(上本町 8 丁目一帯)でした。この博覧会では農業機械館、記念館、外国館、自転車館、自動車館、科学館、電気館、繊維館、観光館、復興館など 20 の展示館が設置されました。特に、テレビジョンの展示が人気を集め、来場者は新しい技術に感動しました。また、いくつかの展示館やモデル住宅は閉幕後に公共施設などとして転用され、地域の復興に大いに寄与しました。

復興大博覧会入場門
〔出典〕復興大博覧会誌



8. 高度経済成長と日本万国博覧会

高度経済成長期に入り、日本の経済は急速に発展しました。昭和 45 年(1970 年)には千里丘陵で日本万国博覧会(EXPO '70)が開催されました。この博覧会のテーマは「人類の進歩と調和」であり、太陽の塔やお祭り広場でのイベントが大きな特徴でした。約 6421 万人の来場者を集め、動く歩道や電気自動車、エアドーム、ワイヤレステレフォン、ファストフードなどの新技術が登場しました。これらの技術はその後実用化され、現在の社会に多大な影響を与えています。また、経済効果を重視する視点もこの博覧会から強く打ち出されるようになりました。

9. 天王寺博覧会の開催

昭和 62 年(1987 年)、(財)大阪 21 世紀協会の主催で天王寺公園にて天王寺博覧会が開催されました。テーマは「いのちいきいき」であり、人と動植物とのふれあいを通じて、特に青少年に生きる喜びや思いやりの心をアピールすることが目的とされました。この博覧会は 1993 年に開港予定の関西国際空港に向けたステップとして位置付けられました。また、マンモスの鳴き声を復元する展示や、企業パビリオン、茶臼山水上迷路など、多彩な展示が行われました。特に茶臼山水上迷路は参加者に大きな驚きと楽しさを提供しました。

天王寺博覧会会場全景
〔提供〕（公財）関西・大阪21世紀協会



10. 大阪・関西万博の開催

2025年4月13日から10月13日まで、夢洲で大阪・関西万博が開催されます。この博覧会は博覧会国際事務局(BIE)承認の国際博覧会であり、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げています。空飛ぶ車の運行などをはじめ、先進技術을 展示し、未来社会のビジョンを体験する場となりそうです。また、万博前からオンラインプラットフォームを通じて世界中の課題やソリューションを共有し、共創の場としての役割を果たすとされています。

11. おわりに

博覧会はその時代の意識を写す鏡であり、政治、産業、社会、文化の課題がコンパクトに集約され展示されます。そのため、人々が何に価値観を置いていたのかが分かります。また、最先端の科学技術や製品を通じて未来社会のイメージを提供する「未来を見せるショーウィンドウ」であるともいえます。一方で、新たな政策や産業の発展を促す狙いもあります。大阪・関西万博は、そのことを改めて確認するチャンスでもあり、私たち自身が未来社会を作る主体であることを再確認できる機会でもあります。この講演会を通じて、博覧会の意義とその歴史的背景を理解し、来年の万博を契機により良い未来を共に創造していくことの重要性を感じていただければと思います。